

STRIVE FOR



瀬戸SOLAN学園初等中部
2026年度第5学年 学年通信
第8号 6月12日発行

先日は学習発表会および学年懇談会にお越しいただきありがとうございました。明日から、1週間ほどのお休みに入ります。しっかりと心と体を休ませて、2クォーターに元気な姿で登校してくれることを、教員一同楽しみにしています。以下、各担任からの通信です。

【1組通信】日本人担任 鈴木より

今日という日は、今日しかないから

1組の子どもたちと関わる毎日が、本当に楽しいです！社会が好きな子もいれば、算数が好きな子もいる。みんなを引っ張っていくことが得意な子もいれば、さりげなく周りを支えることが得意な子もいます。団結する日もあれば、思いがすれ違って喧嘩になる日もある。そんなそれぞれの個性がそろった5年1組が、私はとても好きです。

1クォーターが終わり、子どもたちの素直な人柄が少しずつ見えてきました。「先生、今日はもう気力が出ない」と、ぽつりと弱音をもらしてくれる子もいます。本音を言える場所になれているのかな、とまず安心します。でも同時に、前向きに引っ張っていきたい自分の気持ちと、今日は疲れているという子どもの気持ちとのギャップにはっとします。一人ひとりのことを、もっと丁寧に理解しなくてはと気づかされる瞬間です。

だからこそ、表情をよく見ること、言葉や行動の裏側にある気持ちを想像しながら関わることを大切にしたいと思っています。今日という日は、今日しかない。5年1組の担任として、2クォーター以降も一人ひとりの一瞬一瞬を大切にに関わり、みんなで成長していけるクラスにしていきたいと思っています。

<最近の5-1 思い出ギャラリー>



休み時間のトランプ



理科でインゲン豆を育てる



学習発表会の飾り付け

【2組通信】日本人担任 樋口より

私が日々感じている「5年2組の好きなところ」を3つ、紹介します。

① 「いざという時のきりかえ上手」

先日の地震の避難訓練の時、ふざけたり真剣に取り組まなかったりする子は一人もいませんでした。「いざという時」の切り替えの早さは抜群です。

② 言いづらいことも「しっかり言葉にできる」誠実さ

「それは言い過ぎじゃない?」「先生、こんな授業をしてほしいんですけど」など、自分の意見を恐れずにしっかり伝えることができます。お互いの信頼関係があるからこそその姿です。

③ パワーをもらえる「底なしの明るさ」

学校内で、5年生の挨拶はダントツで一番だと思っています。「先生、おはようございます!」という元気な声に、私も毎日たくさんのパワーをもらっています。

「先生、これやっていい?」からの卒業

実は4月、私が子どもたちと関わり始めて一番気になっていたのは、「先生、これやっていいですか?」「先生、〇〇さんが~しています」という確認や報告の多さでした。ある時、「なんでそんなに確認するの?」と聞いてみると、「『まずは先生に聞きなさい』って教わってきたから……」という本音をこぼしている子もいました。

子どもたちの主体性を育むために必要なのは、「自己決定の場があること」と「その決定に責任を持つこと」だと私は考えています。だからこそ、子どもたちには「あなたたちのクラスだから、あなたたちが決めればいい。みんなで合意をとってルールを決めな」と伝えてきました。

すると最近、子どもたちの行動が変わってきたのです。「今日給食食べ始めるの早かったから、おかわりタイム5分早くするね。みんないい?」「俺らのグループ、授業ちゃんと受けられるように自分たちでルール決めようぜ」そんな風に、自分たちでクラスを運営する声掛けが、あちこちから聞こえるようになりました。「ルールは自分たちで変えられる」「自分の行動に責任を持つ」。学校という小さな社会の中で、他者と関わりながら大切なことを学んでほしいと思っています。

【追記】頼もしすぎる子どもたち

先日、出張で3日間クラスを空けることになりました。私が「留守中、仲良くやっててね」と声をかけると、ある子からこんな言葉が返ってきたのです。

「いや、俺ら多分トラブル起こすけど、自分たちで解決しておくよ」

そしてその言葉通り、出張中の3日間、私の携帯に学校からの連絡（トラブル）は一つも鳴りませんでした。きっといろいろなことを、自分たちで解決しようと努力したのだと思います。

<最近の5-2思い出ギャラリー> ☆家庭科で、しらたまを作りました！



【3組通信】日本人担任 小山より

最近、自分が嫌な思いをした経験をもとに、「みんなが気持ちよく過ごすにはどうしたらよいか」を子どもたちなりに考え、行動しようとする姿が少しずつ増えてきています。一方で、自分の気持ちをうまく伝えられなかったり、モヤモヤした思いを抱えながら葛藤する場面もあります。それでも、相手と関わろうとしたり、自分なりに頑張っって気持ちを整理しようとしたりする姿に、日々の成長を感じています。

授業に集中して一生懸命取り組もうとする姿が見られる一方で、「なかなか集中が続かない」「つい周りと話してしまう」といった悩みを抱える子どもたちの姿もあります。子どもたち一人ひとりの様子はさまざまであり、教員としても、ただ「集中しよう」「話を聞こう」と声を掛けるだけではなく、どのような関わり方や環境づくりが効果的なのかを日々考えながら支援を行っています。

そのような中で、ブライアン先生から、気持ちを落ち着かせたり、不安やストレスを和らげたりするためのアイテムについて紹介しました。もちろん、必要と感じない子どももいますが、自分の気持ちを整え、安心して学習に向かうための一つの方法として取り入れています。

ただし、アイテムで遊び始めてしまったり、音を立てて周囲の集中を妨げたりしてしまったりは、本来の目的とは異なってしまいます。そのため、「自分を落ち着かせ、学習に向かうために使う」ということを、クラスのルールとして確認しながら活用しています。



「算数2時間あるのきつい」と言いながらも楽しむ算数の様子



毎日続いている朝のマイタイムの音読練習の様子



ワールドカップの点数を予想中



チーム探究で3組のアイデア出しの様子(SOLANのために何かしたい)



コナン風の映画制作中（上映日は12月予定）